

2021年のアメリカプロ野球は大谷翔平君のための1年であるかのようでした。今回は再度、大谷君特集です。記事や写真はNEWSWEEKからです。アメリカのマス・メディアは「ヒーロー」が登場すると、天高く持ち上げ、おだてあげておいて、少しでも調子が悪くなったり、批判されることがあると「どっすーん」と地獄の底まで突き落とす恐ろしい傾向があります。大谷君にそのようなことが起こらないことを願っています(笑)。



大谷君のどこがすごいのかは知っていますよね。それは記録と同時に、彼の「人間性」なのです。「強欲(ごうよく)で傲慢(ごうまん)で他者を顧みようとしない、どうしようもないアメリカ人(笑)」とは全く異なった、素晴らしい性格をしている点なのです。この性格は、大谷君が小学生高学年から中学生になる時点で努力と時間をかけて作り上げたものなのです。森館長よりもはるかに立派な人間性を、若くして備えておられます。

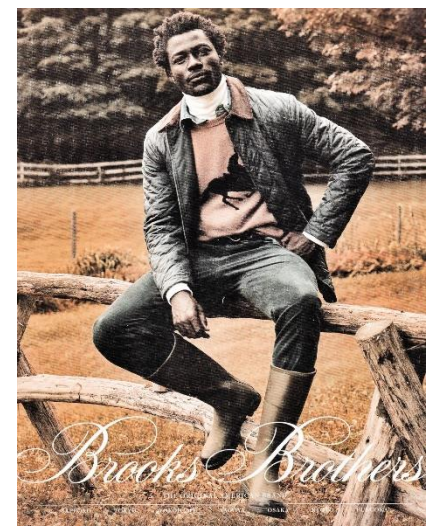
BEHIND "SHO-TIME" SHOHEIの素顔が分かるエピソード 10

人物像 みんな大好き「オオタニサン」はフィールドの外ではどんな感じ? 大谷翔平、27歳の日常とは 青池奈津子 (ロサンゼルス在住MLBライター)

- チームメイトと携帯ゲーム**
チームメイトとの交流を兼ねた大谷翔平の趣味は、携帯ゲーム。MLB新人時代の2018年、大谷はかつての対戦相手オンラインゲーム「クラッシュ・ロワイヤル」(写真)と一緒にやろうとチームメイトの何人も次々参加し、ロサンゼルス・エンゼルスで大流行した。一時はチームの半数近くが遠征中のバスの中で携帯にかじりつき、互いに対戦して盛り上がったという。大谷は日本ハムのメンバーも巻き込み、さらにはボストン・レッドソックスの敵人も加わって、野球選手らのみならずゲーム内コミュニティでワールドワイドな交流が行われていたとも。なお、一番課金が多かったのはエンゼルスで最長年俸のマイク・トラウトだとか。
- 通訳が明かす英語力**
渡米2年目の時点で、通訳の水原一平氏(写真右)が「野球関係ならリスニングはほぼ完璧に理解している」と言っていたほど英語の上達は早い。水原氏によれば、「耳が良い。音楽など、1度聴けば「なんか前に聞いたことがある」と、メロディーを覚えてしまう」のだとか。英語でのコメントはまだ簡単なものしか披露しないが、選手らとは通訳なしでもよく話しており、ここ1〜2年は、英語の質問に通訳される前か「うん、うん」とうなずいている。
- 音楽は雑食?**
これまでMLBで使用した試合の登場曲は、ジャンルを問わず多彩だ。ヒップホップの「Showtime」(リル・ウェイン)や、人気アニメ「呪術廻戦」のエンディングテーマ「LOST IN PARADISE feat. AKLO」(ALI)、ポップスの「Wrapped Up」(オリバー・マーズ)、エレクトロニックな「Do Or Die」(アフロジャック vs. サーティエ・セカンズ・トゥ・マーズ)、人気テレビドラマ「ゲーム・オブ・スローンズ」のテーマなど。MLB恒例の「新人の儀式」では人気ラテンポップ曲「Despacito」の日本語バージョンで美声を披露したが、カラオケにはほとんど行かないらしい。
- 女性ファンをとりこに**
チームメイトのジャレド・ウォルシュが明かしたエピソードによると「チームのバスの外にいた女の子4人が、大谷がバスの中にいるのを知って泣きだした」とか。「(球界一の選手とされる)マイク・トラウトもかなりの大物だけど、マイクがバスに乗り込んでいても泣きだす子を見たことがない」とウォルシュ。元オークランド・アスレチックス投手で、現在は野球解説やポッドキャストの司会を務めるダラス・ブレイデンはそのエピソードに「ビートルズやマイケル・ジャクソンと同じくらい」と大興奮。
- 物おじせずフレンドリー**
MLBに移籍直後の新人時代、大谷が自ら挨拶に来てくれたと、何人もの選手が明かしていた。当時のチームメイト、イアン・キンズラーは、選手専用カフェテリアで初めて会った大谷に「アイ・アム・ショー・ヘイ」と自己紹介され、そのまま一緒に朝食を。キンズラーの皿を見て大谷は「ワッフルが好き」と言ったそうだ。4年目の今はすっかり溶け込んで、クラブハウスでのピリヤードやミニバスケットボールによく参加しているらしい。強引に誘われたボールカーでは、ビギナーズラックでちょっと儲けたとか。チームメイトらしく、大谷は「いつもスマイル」「いら立っているのを見たことがない」と油断しているとか、ショー・ヘイがジョークを飛ばしてくる。
- 気になる愛車は……**
今年、キャンプ地でたびたび運転するところが目撃された愛車は、マット・ブラックカラーのテスラ「モデルX」(写真)。渡米当初は免許がなく自転車や球棒で過ごすこともあったが、アメリカ滞在中の2019年オフの際、左腕手術後のリハビリ中に運転免許を取得。大谷が乗車中の映像をテスラの社外取締役である水野弘道氏がツイッターで「Good choice, Shohei!」とつぶやくと、テスラのイーロン・マスクCEOも「ハートマーク」で応答。
- 体をつくる料理男子**
日本ハム時代の寮生活から、運米後に1人暮らしとなり、自ら包丁を握るようになった大谷。強靱な体をつくるため、管理栄養士の指導の下、MLBに移籍当初はオムレツをよく作ると話していた。しかし昨年のオフあたりから血液検査をして自分に合う食材を選びをするようになり、卵黄やグルテンは極力食べなくなったそうだ。プロテインドリンクの代わりにバナナや、テスラのイーロン・マスクCEOも「ハートマーク」で応答。
- 尊敬すべき、きれい好き**
フィールドに落ちていたゴミは必ず拾ってゴミ箱へ。近くゴミ箱がないときは、お尻のポケットに入れてあとで捨てている。Tシャツなども自ら丁寧に折り畳んでしまっており、大谷のロッカーはとてきれいでいる。
- ファッションはシンプル**
公式会見にはスーツで登場することが多い。普段はカジュアルで、Tシャツにジーンズをまにかっこよく着こなすもの、あまりこだわりがないようで、無地やワンポイントデザインのものが多い印象。オールスターで身に纏ったネイビー・スーツとTシャツ、スニーカーは大谷がブランドアンバサダーを務めるヒューゴ・ボスの主幹ブランド「ボス」が提供(写真)。
- スター選手にも大人気**
オールスター戦のホームランダービー前の打撃練習中、今季飛び鳥を落とす勢いで活躍するトロン・ブルー・ジェイズのプラディミール・ゲルロは、大谷とのツーショットを撮りたいと近くにいた記者に呼びかけを頼んだそう。オールスターのバレードを歩いた後にロッカーへ行くと、そこには選手やコーチが大谷にサインをリクエストしたボール800球、ユニフォームが10枚、バット数本がズラリ。一瞬たじろぎながらも、大谷はその場に座り、先発登板前にもかかわらず一つ一つ丁寧にサインした。



【右】アメリカの歴代の大統領の御用達(ごようたし=地位の高い人の愛用:もちろんオーダー・メイドです)であり、館長も御用達(もちろんレディ・メイドです)のブルックス・ブラザーズという洋服会社の宣伝です。アメリカでは倒産したとASSETSで教えました、ブランドは残っているようなので、安心しました。(笑)。



現代が学べる 志 成 館

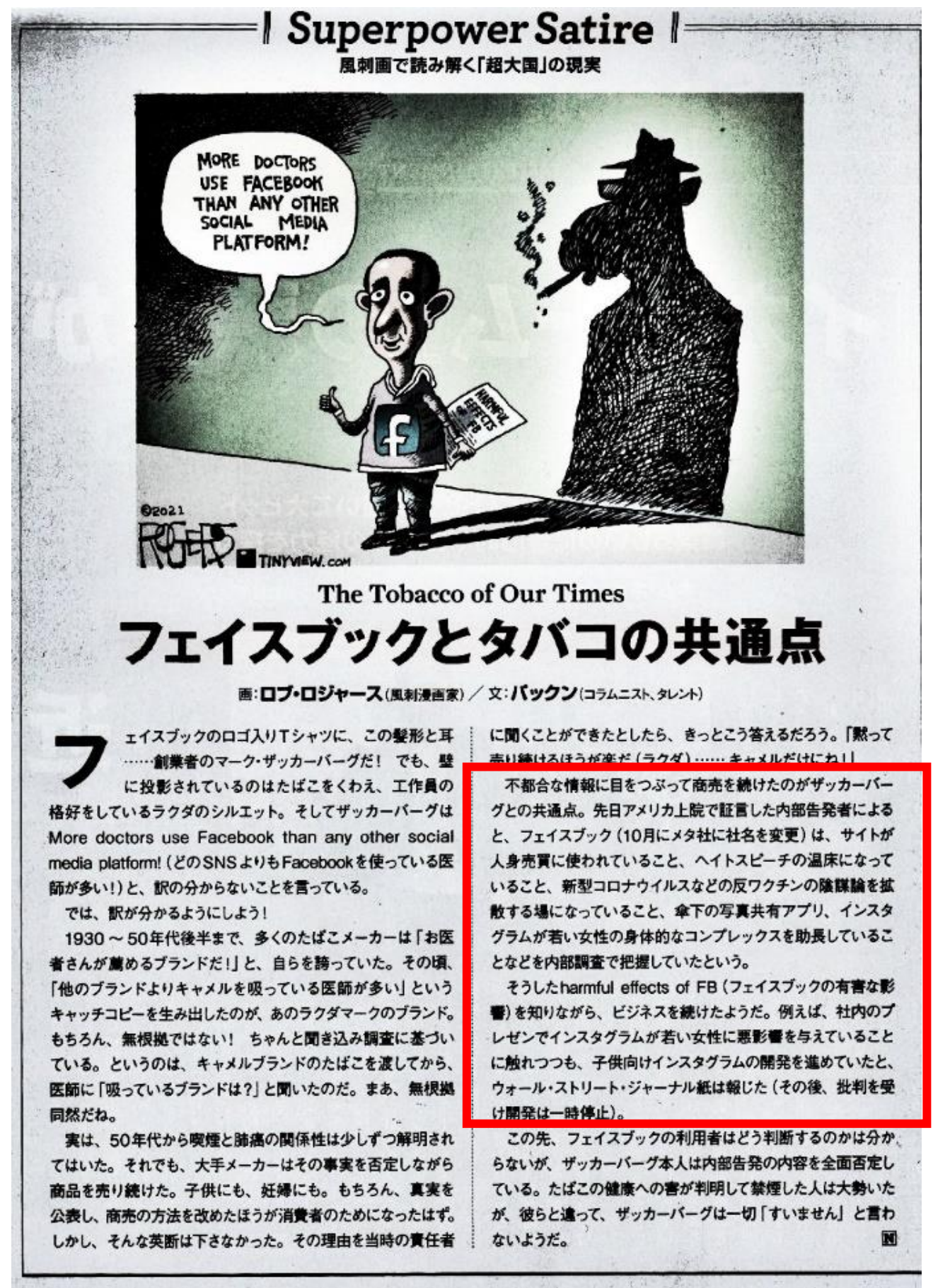
Facebook は世界中で批判の矢面に立たされています。強欲であるとか、世界の子供の将来のことなど全く考えていないとか、世界中で競争相手を脅しているとか、脱税をしているとか、悪評には限りがないほどです。大きくそして強くなりすぎたからということも言えると思います。しかしそれだけではないことが、元従業員による、社内での意思決定過程での無慈悲かつ非人道的な部分があるという、アメリカ上院での証言で、明るみになりました。写真の女性は当該の元従業員であります。尚、フェイスブックは名前を**META (メタ)**に変えていますので覚えておいてください。

右の記事は、NEWSWEEKに掲載された、志成館一押しの信頼できるアメリカ人である**パクン=パトリック・ハーラン氏の記事**です。内容は、イギリスのたばこ会社が「タバコが人類に有害でわかっているにもかかわらず宣伝をし続けた」という犯罪的な行為と批判したうえで、フェイスブックも同じように、「世界中の人々に、重大な悪影響を与えるという事がわかっているにもかかわらず、それを隠して平気で、犯罪的な行為をし続けている」というものです。⇒「タバコによる税金収入(地方税)」が「タバコを現認とする病気への(国や地方公共団体)による医療費への支払い」の方が大きくなったので、「禁煙」運動を始めたのです。日本も全く同じなのです。



【左】アメリカの議会の上院で、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグCEOが、フェイスブックの運営方法が、子供たちへのとてつもない悪影響を知っていながら、お金儲けのために、知らんぷりをしていたという「内部告発」をした女性の写真です。TIMEの表紙にもなっており、事務室前に写真があります。このような勇氣ある人たちによって、社会は少しずつ改善されるのです。

【右】このことに関する、パトリック・ハーラン氏の記事です。



フェイスブックとタバコの共通点

画:ロブ・ロジャース(風刺漫画家) / 文:パクン(コラムニスト、タレント)

フェイスブックのロゴ入りTシャツに、この髪形と耳……創業者のマーク・ザッカーバーグだ!でも、壁に投影されているのはたばこをくわえ、作業員の格好をしているラクダのシルエット。そしてザッカーバーグはMore doctors use Facebook than any other social media platform! (どのSNSよりもFacebookを使っている医師が多い!)と、訳の分からないことを言っている。

では、訳が分かるようにしましょう!
1930~50年代後半まで、多くのたばこメーカーは「お医者さんが薦めるブランドだ!」と、自らを誇っていた。その頃、「他のブランドよりキャメルを吸っている医師が多い」というキャッチコピーを生み出したのが、あのラクダマークのブランド。もちろん、無根拠ではない!ちゃんと聞き込み調査に基づいている。というのは、キャメルブランドのたばこを渡してから、医師に「吸っているブランドは?」と聞いたのだ。まあ、無根拠同然だね。

実は、50年代から喫煙と肺病の関係性は少しずつ解明されてはいた。それでも、大手メーカーはその事実を否定しながら商品を売り続けた。子供にも、妊婦にも。もちろん、真実を公表し、商売の方法を改めたほうが消費者のためにははず。しかし、そんな英断は下さなかった。その理由を当時の責任者

に聞くことができたとしたら、きっとこう答えるだろう。「黙って売り続けるほうが楽だ(ラクダ)……キャメルだけにね!」

不都合な情報に目をつぶって商売を続けたのがザッカーバーグとの共通点。先日アメリカ上院で証言した内部告発者によると、フェイスブック(10月にメタ社に社名を変更)は、サイトが人身売買に使われていること、ヘイトスピーチの温床になっていること、新型コロナウイルスなどの反ワクチンの陰謀論を拡散する場になっていること、傘下の写真共有アプリ、インスタグラムが若い女性の身体的なコンプレックスを助長していることなどを内部調査で把握していたという。

そうしたharmful effects of FB(フェイスブックの有害な影響)を知りながら、ビジネスを続けたようだ。例えば、社内のプレゼンでインスタグラムが若い女性に悪影響を与えていることに触れつつも、子供向けインスタグラムの開発を進めていたと、ウォール・ストリート・ジャーナル紙は報じた(その後、批判を受け開発は一時停止)。

この先、フェイスブックの利用者はどう判断するのは分からないが、ザッカーバーグ本人は内部告発の内容を全面否定している。たばこの健康への害が判明して禁煙した人は大勢いたが、彼らと違って、ザッカーバーグは一切「すみません」と言わないようだ。



【左】黒い岩の中にそっとたたずむ「シロクマ君=北極グマ」です。実はここは北極圏であり、(北緯67度以北の極寒の地を指す言葉)本来ならこの写真の黒い色の岩はすべてが「雪」にうずもれて真っ白色で、白クマさんはどこにいるのかわからないはずなのです。恐るべき環境破壊の写真です。TIMEから。

LIGHTBOX
Hide out
A polar bear nestles among the rocks of Bird Cove on the rugged coastline of Churchill, Manitoba, on Oct. 29. The Canadian town, situated in the north of the Arctic, has long billed itself as the polar-bear capital of the world. But warming temperatures have brought a sharp decline in bear numbers, without them, Carline Spence, a look at the city, Bear Lodge, told the New York Times. "We don't make money."
Photograph by Damon Winter—The New York Times/Redux
For more of our best photographs visit <https://www.nytimes.com/lightbox>